

シラバス詳細

タイトル「2021年度」、カテゴリ「学部科目-教養教育科目」

和文・英文ボタンを押すことで、和文↔英文の切り替えができます。

和文 英文

医学部のシラバスはこちらから。
医学系研究科博士課程のシラバスはこちらから。

科目情報

コースナンバリング

1-302x-000

科目名

現代特別（多文化社会論）

開講学期

前期

開講時期

1クォータ

曜日・校時

水 3

…位数

<
BACK

| -

講義情報

学士力番号

2-(1), 2-(3), 3-(1), 3-(2), 3-(3)

講義形式

講義とディスカッション、グループごとの発表

講義概要

今日の多くの社会は「多元的である」とか「多文化的である」といわれる。また、同時に多元的・多文化的な社会において、他者や異文化との共生の必要性も議論されている。たしかにグローバル化のもとで国境を越えた人の移動も多くなり、複数の文化によって構成される国においては、先住権や文化維持権をめぐる論争などもしばしば見受けられるが、今日の多元社会や多文化社会においてはなにが問題とされ、他者や異文化と共生をするためには、どのような課題が解決されなければならないのだろうか。この講義では、主に現代政治理論の分野における多文化社会の理論や論争を紹介し、ヨーロッパの多文化社会をめぐる問題と共生に向けての制度やその他の取り組みについて議論を行う。

開講意図

今日の多文化社会における様々な問題と共生のための課題について、理論的視点と取り組みのケースを学習することによって、今後皆さんが日本や外国の多文化社会や共生のありかたについて議論をするための、一つの礎を提供すること。

到達目標

今日の多文化社会における様々な問題と共生のための課題を理解する。

履修上の注意

初回到口頭発表のためのグループ分けを行う。関心があるテーマにつき、私たちの社会、生活においてそのテーマはどのようなことに関わっているのかについて事例を探して、要約し、自分たちの考えにつき1グループ20分程度で発表する。発表の際には、パワーポイントでスライドを作成しておくことが必要。

授業計画

回	内容	授業以外の学習
1	イントロダクション	イントロダクションで述べられたことについて復習。

回	内容	授業以外の学習
2	グローバリゼーションと多文化社会	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。
3	ネーションとナショナリズム(1)	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
4	[ネーションとナショナリズム(2)学生の発表・ディスカッション]	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
5	アイデンティティ・承認・寛容(1)	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
6	アイデンティティ・承認・寛容(2)[学生の発表・ディスカッション]	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
7	多文化社会と市民権 (1)	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
8	多文化社会と市民権 (2)[学生の発表・ディスカッション]	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
9	日本の多文化社会と共生に向けての課題(1) (アイヌ、在日、ヘイトスピーチ)	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
10	日本の多文化社会と共生に向けての課題(2) [学生の発表・ディスカッション]	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
11	佐賀の多文化状況と共生社会に向けた取組み (1)佐賀県国際交流協会	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
12	佐賀の多文化状況と共生社会に向けた取組み (2)佐賀県庁「多文化共生プラン」	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。
13	ヨーロッパの多文化社会と共生に向けての実践 (イギリス：人種関係法の変遷・都市計	次回のテーマにつき、関連情報を収集し、予習しておく。自分の担当箇所の発表準備を行う。

回	内容	授業以外の学習
14	ヨーロッパの多文化社会と共生に向けての実践（フランス：移民の分離・同化・統合）	コース全体の振り返り及びレポート作成準備。
15	まとめ	コース全体の振り返り。

成績評価の方法と基準

成績は、以下の重みづけによって算出される。

- 1) 口頭発表：40%
- 2) レポート：40%
- 3) 授業への貢献（積極的に議論に貢献する）：20%

開示する試験問題等

希望のあった学生に対して、口頭発表、レポートの評価、授業貢献度についてそれぞれの得点を開示する。

開示方法

授業後などに教員に開示要求をし、それに応じて、研究室にて成績資料データを開示。

教科書

資料名		版
著者名	発行所名・発行者名	出版年
備考（巻冊：上下等）		ISBN
教科書はないが、参考文献リストを初回に配布		

オフィスアワー

木曜日の5校時 ※事前にメールでアポイントメントを入れることが望ましい。

アクティブラーニング導入状況

アクティブラーニング導入状況				
カテゴリー4	カテゴリー3	カテゴリー2	カテゴリー1	カテゴリー0

<p>学生が自ら主体となって、学習の方向性を定め、問題解決に導くための時間です。PROBLEM BASED LEARNING</p>	<p>グループや個人で行った能動的学習の成果を、教室内外で発表し、その評価を受けたり、質問に対応したりすることにより、学修した内容を深化させるための時間です。OUTPUT</p>	<p>学生自らが自由に発言し、グループやペアでの協働活動により課題に取り組み、何らかの帰結に到達するための能動的学習の時間です。INTERACTION</p>	<p>学生からの自由な発言機会はないものの、授業時間中に得られた知識や技能を自ら運用して、問題を解いたり、課題に取り組んだり、授業の振り返りをしたりする能動的学習を行う時間です。ACTION</p>	<p>基本的に学生は着席のまま、講義を聞き、ノートをとり、知識や技能を習得に努める時間です。INPUT</p>
20	20	20	20	20

その他

理工学部の技術者教育(JABEE)プログラムでは、「人類のさまざまな文化や社会に関する知識を基に、多面的に物事を考える」能力を養成するために、下記の学習・教育到達目標を掲げています。

基本教養科目（文化の分野・現代社会の分野）の修得により、下記の学習・教育到達目標が達成されます。

（機能物質化学科機能材料化学コース [2022年度卒業生まで] ）学習・教育到達目標(C-3)

（機械システム工学科）学習・教育到達目標(7-1)

（電気電子工学科 [2023年度卒業生まで]）学習・教育到達目標(D1)

（理工学科応用化学コース [2022年度卒業生まで] ）学習・教育到達目標(C-3)

（理工学科機械エネルギー工学コース）学習・教育到達目標(7-1)

（理工学科メカニカルデザインコース）学習・教育到達目標(7-1)